

GFPグローバル産地のイメージ (三原村農業公社：高知県三原村)



資料 2 - 3

高知県産ゆず[※]はEUで高い評価を得ており、北川村ゆず王国(株)などを中心に青果及び果汁の輸出量を順調に拡大している。しかし、国内外の需要が増加する中、産地の生産拡大が追いついていないため、果汁などはニーズに充分に対応できていない。今後、園地の有効活用や産地連携による安定供給が求められる。

三原村においては、三原農業公社が中心となり、水田転作や耕作放棄地等を活用して栽培面積を順調に拡大しており、北川村ゆず王国(株)と連携して輸出に取り組むことにより、収益拡大を目論んでいるが、後継者不足、輸出専用集出荷施設の設置等の課題を抱えている。
※高知県のゆず輸出実績推移(青果、果汁等合計)：H27：1.6億円、H28：1.8億円、H29：3.0億円

現状

- 人手不足補完のため、高知大学と肥培管理技術、点滴灌水技術等の共同研究を行うと共に、農薬防除機械の開発等スマート農業を検討している。
- ニーズの高いアジア、EU向けへの輸出を前提に、輸出実績のある北川村ゆず王国(株)との連携を開始している。

課題

- 深刻な人手不足の補完としてスマート農業を駆使した作業効率の効率化が必要。
- 輸出対応型集出荷施設の新規設置が必要。
- 輸出に対応した農薬使用への対応



計画策定とハード支援

- 高知大学と共同研究を行っている肥培管理技術の構築や点滴灌漑施設導入並びに農薬防除機械等の開発
- 輸出対応型集出荷施設設置
- ターゲットの想定、ニーズに合わせた輸出戦略の策定
- 国、県、ジェトロ一体となったワンストップサポート



自動防除機械

アウトプット

- スマート農業の活用による生産効率向上、収穫量の増大
- 対象国に合わせた果実・果汁品質、表示等への対応

- シンガポールなど、アジア圏への輸出をきっかけとしてその他の地域へ輸出拡大へ

EU

シンガポール
などアジア圏

